

福島県看護協会

第8号

JANUARY.2023

いわき支部だより

記事内容

- P1. 支部長挨拶
- P2. 病院紹介
- P3. いわき支部活動報告 教育委員会/地域看護活動委員会
- P4. 訪問看護紹介/役員・委員紹介/編集後記

いわき支部長挨拶

福島県看護協会いわき支部長 木村 千春
(公益財団法人 ときわ会 磐城中央病院)



会員の皆様には、日頃より支部活動にご理解・ご協力をいただきありがとうございます。重ねて、おひとりおひとりが地域の中で感染対策、医療に取り組んでいただいていることに心より感謝申し上げます。

2020年に世界規模で拡大した新型コロナウイルスは、これまでの私たちの常識を一変させ、生活様式に大きな変化をもたらしました。いわき支部活動においても休止や縮小せざるを得ない状況が続いています。そんな中で専門知識を持ち、地域の方々や患者さんに最も身近な存在である看護職は、自宅での生活から施設や病院における感染対策や医療において重要な役割を担っています。新型コロナウイルス感染症が長期化する中、看護職への社会的役割への期待はますます大きくなっています。ウィズコロナの中での看護の本質について考え、学ぶ機会と捉え看護の質の向上、看護職が輝きながら働き続けられる環境作りに少しでも貢献できるよう皆様と取り組んでいきたいと考えています。

福島県看護協会では、「看護の目指す姿と活動の方向性『いのち・暮らし・尊厳を守り支える看護～ふくしまの未来に向けて～』」を策定し、発信しています。いわき支部としても看護の目指す姿を念頭に活動を行っていきたいと考えています。

最後になりますが、皆様が健康で活躍できること、さらに広報紙が発行される頃にはコロナが少しでも収束していることを願いながら挨拶といたします。今後ともよろしく願いいたします。



紹介

公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院

看護部長 遠藤 利美

日頃より、当院に関係する患者様・職員に対し、さまざまな方面からご支援いただきましてありがとうございます。重ねて、長期戦に入りました感染対策にまつわる『貴重な情報』提供や『専門的な研修会』へのお誘いにも感謝申し上げます。私たち職員は、基本的に大切なことを地道に正確に実践していくことが患者様や地域の皆様へ寄与できることと考え、今後とも感染対策に努めてまいりますので引き続きご指導よろしく申し上げます。それでは、当院の紹介をさせていただきます。

1. 組織に関して



当院は、公益財団法人磐城済世会に所属する医療機関のひとつで、新舞子海岸を目の前にした平藤間地区に位置しています。精神科医療を専門とし、市内に6病院あるうちのひとつになります。

以下に法人の目指すところ（使命）と、当院の基本方針をしめします。

使命

1. 医療が地域社会に奉仕するという役割を、なによりも第一義とする。
2. 全職員の業務を、人間愛と思いやりの心をもって高める。
3. 医学の学術性を不断に磨き、地域住民の至福のため、惜しみなく尽くす。



基本方針

- 職員の教育・研修により、医療水準の向上と医療安全に努めます。
- 病院職員すべてでチーム医療を行います。
- 地域と連携し、公共性の高い健全な経営を行います。



2. 地域の中での役割について

当院は、精神科急性期病棟と認知症治療病棟を含む203床の『入院診療』と、多職種連携と地域関係者との連携を通して訪問や通所リハビリを交えた『外来診療』に取り組んでいます。概要は、以下の通りです。

- ① 専門医療の実践：認知症・統合失調症・児童思春期など、コンサルテーションリエゾン活動
- ② 患者様を地域で支える体制整備：アウトリーチ、グループホーム、家族会、C-SSTなど
- ③ 精神科スタッフの研修機能：実習受入れ（Ns・OT・PSW・CP・Drなど）

簡単ではありますが、以上です。世の中の情勢が大きく変化するこの時期、体と心のバランスに変調をきたす方が増えてきました。私たちは、その方々に貢献すべく看護の専門性に磨きをかけてまいります。

こちらのコーナーでは、各委員会の活動のようすをお伝えします。



教育委員会

令和4年9月10日(土)10時~12時に福島労災病院大会議室よりオンラインにて第1回看護研修会を開催しました。新型コロナ感染拡大が落ち着いたため、今年度もオンライン開催となりました。研修の運営にあたっては、キャリア支援機構様のサポートを受け、「ACPIについて」と題しまして、労働者健康安全機構 福島労災病院の副院長である武藤淳先生にご講義いただきました。当日は、約40名の参加者があり、それぞれの職場等で受講いただきました。受講後のアンケートでは、「がん治療について、詳しく説明がありわかりやすかった。」「人生の最期について考えているかについて、一般の方と医療従事者

労働者健康安全機構 福島労災病院
副院長 武藤淳先生



では大きな差があることに驚きを感じた。その差があることを含めながら、今後患者さんやそのご家族と信頼関係を築き、よい看護ができるよう関わっていきたい」などの感想が寄せられました。また、武藤先生ご自身の体験も話されており、日々の会話の中に思いが表現されていることもわかり、いろいろと考えさせられる有意義な時間でした。

いわき市医師会附属いわき准看護学校 ● 鹿又 明美



地域看護活動委員会 まちの保健室を開催しました

令和4年10月8日(土)、イオンいわき店において「まちの保健室」活動を新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となりました。参加された方の健康チェック、健康相談、禁煙相談を実施いたしました。参加者には相談に応じたパンフレットや記念品を配布し、来場された子供たちに風船を配るなどし、47名の方の参加がありました。

私たちが、地域の皆さまの健康を願う中、お客様か



らも、「以前は毎回きて楽しみだったのよ」「病院もコロナで大変でしょうけど、またやってほしい」などの暖かいお言葉をいただき励まされました。これからも、地域の皆さまに寄り添うスタイルで感染対策を講じながら状況に合わせて「まちの保健室」を開催していきたいと思います。

社団医療法人 呉羽会 呉羽総合病院 ● 志田 真澄

訪問看護 紹介

いわき市医療センター 患者サポートセンター

訪問看護認定看護師 佐藤江里子

いわき市医療センター訪問看護は、患者サポートセンターに所属し、当センターを退院した患者さんに対し、訪問看護認定看護師を含む3人の訪問看護師が対応しています。主な対象患者は、NICUに入院していた低出生体重児、人工呼吸器を装着している先天性疾患を持つ小児、全診療科の終末期の患者さんです。特に、緩和ケア病棟を退院される患者さんの中には、体調が良くなり短い時間であっても退院を希望される方や、麻薬の持続注射を実施している患者さん、継続した医療処置が必要な患者さん等がいます。

急性期の病院から在宅療養へスムーズに移行するために、入院中から医師や病棟看護師、MSWなど多職種でカンファレンスを行い必要な支援を考え提供できるよう連携しています。疾患を持つ小児のご両親からは、症状に対する疑問のほか子育てに対する不安などもあり、訪問の際の説明に加え、24時間体制で対応しています。在宅療養への移行は、ご本人・ご家族ともに期待と同時に大きな不安を抱えています。安全に安心して療養生活を送れるよう、入院中から訪問看護師は病棟訪問を繰り返し行っています。訪問看護認定看護師が、病棟のコアナースに在宅看護の知識と技術の研修をしています。どの病棟でも、退院後にご本人・ご家族が困ることがないように取り組んでいます。また、退院当日から訪問看護を開始していますが、退院直後には病棟看護師も同行訪問することで、より安心できるよう精神面への看護に努めています。退院後もご本人・ご家族の不安は継続します。そのため、訪問看護の際には、ひとつひとつのケアを丁寧に実施しながら、ご本人・ご家族とのコミュニケーションの時間を大切にしています。症状コントロールをすると共に、いつでも相談できる環境を整え、少しでも長い時間自宅で過ごせるような看護の提供に努めています。

コロナ禍で面会制限がある中、在宅では終末期の患者さんご家族が最期の貴重な時間を共有でき、住み慣れた地域に戻ることでその人らしい時間を過ごすことができていると感じます。訪問した際、病院とは異なるご本人やご家族の穏やかな表情を見ると、自宅で過ごせることの大切さを実感しています。今後も患者さんやご家族が大切な時間をその人らしく生活できるお手伝いができればと思っています。



役員・委員紹介

役員

役職	氏名	勤務先	担当
支部長	木村 千春	ときわ会磐城中央病院	2022年6月末より
副支部長	吉田みどり	いわき市医療センター	広報・渉外
	江尻 智子	福島労災病院	教育
	片寄 睦美	かしま病院	地域活動
書記	大八木千代子	松村総合病院	議事録管理
	佐藤 裕子	ときわ会磐城中央病院	公文書発送
会計	鈴木 郁子	福島整形外科療護園	

教育委員

氏名	勤務先	担当
鹿又 明美	いわき准看護学校	委員長
米野 由紀子	松尾病院	副委員長
藁谷 舞子	中村病院	書記
河合 真理子	呉羽総合病院	書記
江尻 智子 (兼任)	福島労災病院	

地域看護活動委員

氏名	勤務先	担当
志田 真澄 (再任)	呉羽総合病院	委員長
山添 幸恵	小名浜生協病院	副委員長
坂本 聡子 (再任)	いわき市医療センター	副委員長
渡邊 亜樹	福島労災病院	書記
菊地 麻美	松尾病院	書記

広報委員

氏名	勤務先	担当
松本 弥生 (再任)	いわき病院	委員長
黒川 春香	舞子浜病院	副委員長
佐藤 初枝	ときわ会常磐病院	書記
福田 啓子	いわき市医療センター	書記



編集後記

令和4年度、支部だより第8号を発行し、皆様のお手元にお届けすることができました。多くの皆様のお力添えを頂き感謝申し上げます。

今年度もコロナ禍で活動が制限される中、地域住民の健康と安心な生活を維持するために今、私たちにできることを模索し活動して参りました。新型コロナウイルスは今後も変異を繰り返し、収束までにはさらに大規模な感染拡大が生ずることも懸念されています。看護専門職として、感染防止を日常に取り入れた「新しい生活様式」の中で、地域一丸となり協働・連携して地域看護活動に取り組んで参りたいと考えています。

福島県看護協会 いわき支部だより

● 第8号 ●

令和5年1月 発行

発行者：福島県看護協会いわき支部